2－4. 枚方市

No. 4	枚方市

1. 取組の全体像

1. 自治体の概要

①	自治体名	枚方市	②	担当部局名	子ども未来部 子どもの育ち見守り室 子ども相談課
③	人口	396,252(人) ＜住民基本台帳に基づく令和５年１月１日時点の数値＞			
④	自治体内連携	庁内連携部局	子ども未来部子どもの育ち見守り室、観光にぎわい部商工振興課、健康福祉部(健康福祉政策課・健康寿命推進室母子保健課・福祉事務所健康福祉総合相談課・福祉事務所障害支援課・福祉事務所生活福祉課・保健所保健医療課)、教育委員会児童生徒支援課(令和４年度枚方市子ども・若者支援地域協議会 代表者会議構成員)		
		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	「子ども・若者支援地域協議会」における各組織の取組内容・支援策についての情報共有		

2. 形成をめざす地方版連携 PF の姿

①	従前の取組 ※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	・ 既存 PF は、平成 24 年 6 月設置の「ひきこもり等地域支援ネットワーク会議」を継承して、平成 30 年 3 月に設置した「枚方市子ども・若者支援地域協議会」。幅広い関係機関が情報共有し、支援策を検討。平成 25 年 4 月には相談窓口での対応を開始していた。 ・ その他、市としてはヤングケアラー等の調査も実施した。		
			以前から取り組んでいたこと	PF構築に向けて取り組んだこと
		調査	・ ひきこもり・不登校に関するアンケート調査・ヤングケアラーに関する実態調査(令和４年)	—
		構想・方針	・ 枚方市子ども・若者育成計画～ひきこもり等の子ども・若者の自立に向けて～	—
		体制	・ 「子ども・若者支援地域協議会」	・ 「高等学校以降の子ども・若者の支援について語らう会」を新設
		評価・検証等	・ 各種調査に関する分析に加え、相談窓口にて受け付けた相談件数・内容などの情報を整理し、自ら分析を実施。	・ 過去の調査や、相談窓口の相談件数・内容を再確認
②	実現したい状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	・ 中学卒業後や高校中退・卒業後に所属がなくなり、必要な支援が途切れてしまう子ども・若者とつながり、支援することができる。既存 PF で 15 歳～39 歳の子ども・若者を支援してきた実績から、**中高生への支援が、将来の孤独・孤立を防ぐ上で重要かつ、行政から早期につながれる貴重な機会でもあると認識していた**。 ・ 子ども達が社会的所属を失わないよう、必要な情報と支援を届けるために、関係組織が柔軟に連携できる。 ・ 子ども達との接点を契機に、保護者なども含め支援の輪を広げていける状態。		

3. 地方版連携 PF における連携体制

①	連携先支援団体名	寝屋川高等学校(定時制)、大手前高等学校(定時制)、長尾谷高等学校(通信制)、あおい教育支援グループ(フリースクール運営等)			
		選出・打診時の工夫	・ 中学高校以降の支援についてセーフティネットとなっている関係機関	協議体(既設/新設)	「高等学校以降の子ども・若者の支援について語らう会」(新設)
②	支援団体との連携内容	現状の情報共有、課題把握、解決策検討、これらを通じた顔の見える信頼関係を構築している			

4. PF 連携による価値や工夫＿考え方
・　実際に相談対応を担当する課が主導しており、高い熱量と行動力を有して教育など他分野の関係機関へ働きかけている。 ・　ひきこもりの子ども･若者に対する支援を行う既存 PF が存在し、幅広い世代への支援を実施。今回の「高等学校以降の子ども･若者の支援について語らう会」(連携 PF)設立により、特に手が届かないかつ将来的なひきこもりの予防にもつながる中高生のひきこもりへの支援を検討し、既存 PF の機能強化を目指す。 ・　連携先の選出においては、アプローチ困難な若者との接点が豊富かつ早期に連携可能な団体をまずは選定し、その後必要に応じて連携を拡大。また、自治体が主体的に検討した案をベースに検討することでスムーズに検討を進捗させている。

◆詳細情報：当該自治体における従前の取組

（表中　2．形成をめざす地方版連携 PF の姿　③従前の取組　に対応）

【枚方市子ども・若者支援地域協議会】

■　平成 24 年 6 月設置の「ひきこもり等地域支援ネットワーク会議」を継承し、「枚方市子ども・若者支援地域協議会」を平成 30 年 3 月に設置。

■　子ども未来部を中心に、福祉系部局や教育委員会、外部の民間団体など分野横断的なメンバーで構成されている。各機関等が顔の見える関係を築くとともに、さまざまな状況のひきこもり等の子ども・若者に対し、切れ目のない適切な支援が行える体制作りを目指している。

図表　「枚方市子ども・若者支援地域協議会」令和 4 年度代表者会議構成機関

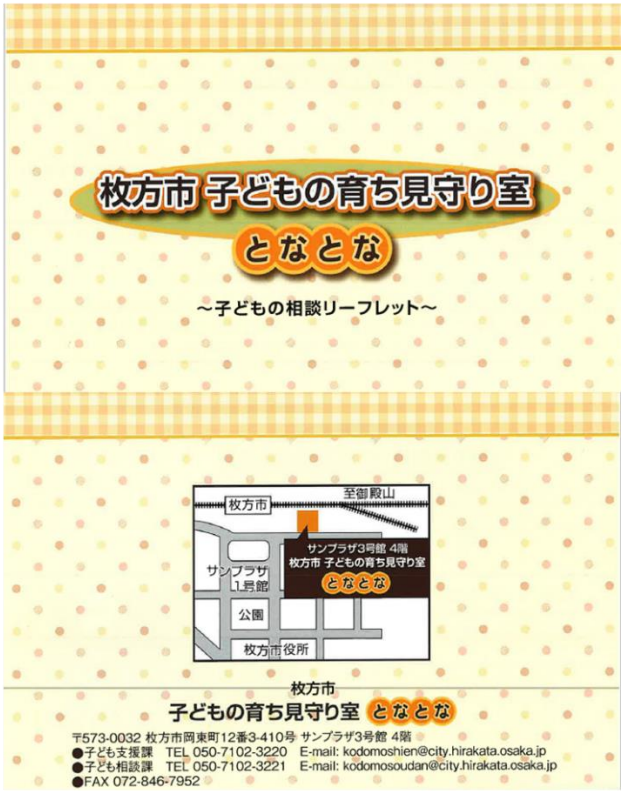
枚方市 子ども未来部 子どもの育ち見守り室	枚方市 観光にぎわい部 商工振興課
枚方市 健康福祉部 健康福祉政策課	枚方市 健康福祉部 健康寿命推進室母子保健課
枚方市 健康福祉部 福祉事務所健康福祉総合相談課	枚方市 健康福祉部 福祉事務所障害支援課
枚方市 健康福祉部 福祉事務所生活福祉課	枚方市 健康福祉部 保健所保健医療課
枚方市 子ども未来部 子ども青少年政策課	枚方市教育委員会 学校教育部 教育支援室 児童生徒支援課
枚方公共職業安定所	大阪府中央子ども家庭センター
大阪府枚方警察署	大阪府交野警察署
独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センター	一般社団法人枚方市医師会
枚方市民生委員児童委員協議会	社会福祉法人枚方市社会福祉協議会
特定非営利活動法人枚方人権まちづくり協会	枚方・交野地区保護司会
枚方市青少年育成指導員連絡協議会	
【事務局】枚方市 子ども未来部 子どもの育ち見守り室 子ども相談課 【子ども・若者支援調整機関】	

【電話・窓口での相談対応】

■　平成 25 年 4 月に、「枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」を設置。15 歳からおおむね 39 歳までの不登校、ひきこもり、ニート等に関する相談を受け、継続して対応方法や支援を検討。必要に応じて、より適した支援機関等につなぐほか、次のステップとしての居場所支援や、家族の会も開催。

- 「枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」は、枚方市駅前のビルに開設されている「枚方市子どもの育ち見守り室　となとな」内に設置。実際に来所しての相談に加え、電話相談にも対応。
- 年間延べ相談件数は 3,000 件程度、新規は 100 件前後。相談窓口にて受け付けた相談件数・内容などの情報を整理・分析している。

図表　「子どもの育ち見守り室　となとな」案内リーフレット



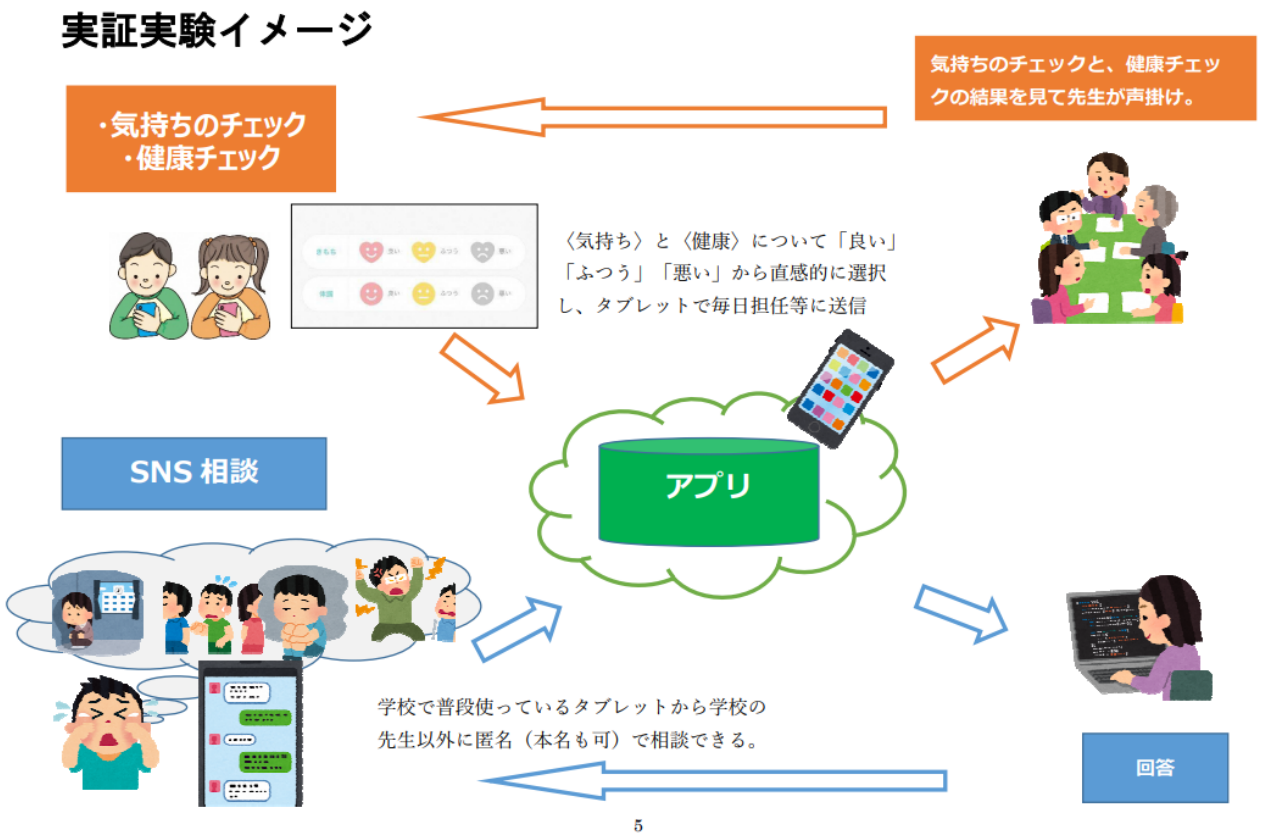
■　子どもの笑顔守るコール

- 幼児・児童・生徒、保護者、教職員等が対象の「教育安心ホットライン」と、いじめに悩んでいる子どもたち、および保護者を対象とする「いじめ専用ホットライン」を設置し、電話相談を受け付けている。
- 子ども本人からの相談は、令和 4 年度には 3 件のみであった。子どもたちにとって、電話相談のハードルは高いと推察された。

【SNS 相談アプリ】

- 令和 4 年 6 月 27 日～9 月 30 日の期間、GIGA スクール端末で利用できる SNS 相談アプリの実証実験を市内の小中学校（各 2 校ずつ、計 4 校）にて実施。市の相談窓口を担当する職員が直接対応にあたった。
- 実証実験の結果 1,024 人からコメントがあり、子ども・若者との新たな接点として有効な手段であると確認。令和 5 年度より該当アプリを GIGA スクール端末に搭載し、市内の小中学校にて本格運用を開始する予定である。
  - 本格運用へ向け、夏の実証実験で得られた改善点を反映し、令和 5 年 2 月には本格運用前に再度実証実験を実施。

図表　SNS 相談アプリ　実証実験イメージ



2. 連携 PF イメージ

5. 連携プラットフォームのイメージ図

ひきこもり等の悩みを抱える子ども・若者（おおよそ15～39歳）とその家族など

ひきこもり・居場所のない中高生（～18歳）とその家族や教員など

相談

既存の面談相談・電話相談

- 子どもの笑顔守るコール（中学生までの教育相談）
- ひきこもり等子ども・若者相談支援センター（15～39歳まで若者相談）など

✓ 子ども・若者本人が面談・電話相談に来るケースは少ない

✓ そこで、更なるアプローチの接点創出を企図

【新規施策①】SNS相談アプリ

- 令和4年夏に一部の小中学生を対象に実証実験を実施。
- 令和5年度より、GIGAスクール端末に搭載し、恒常的運用開始を計画。

【新規施策②】アウトリーチ的事業の拡充

- 令和5年2月よりヤングケアラー支援を目的に家事・育児訪問支援サービスを開始
- 令和5年度よりSSW増員

- 相談対応
- 訪問支援
- 相談窓口の周知
- 重層的支援会議との連携による漏れのない支援

枚方市役所

【健康福祉部】
健康福祉政策 課
保健所 保健医療課
母子保健課
健康福祉総合相談課
障害支援課
生活福祉課

【その他】
商工振興課
教育委員会
児童生徒支援課

【子ども未来部】
子ども青少年政策課
子どもの育ち見守り室
相談対応を担当

外部団体

【公的団体】
警察署
公共職業安定所
子ども家庭センター
大阪府立寝屋川高等学校（定時制の課程）
大阪府立大手前高等学校（定時制の課程）

【NPO/民間団体等】
医師会
保護司会
社会福祉協議会
人権まちづくり協会
あおい教育支援グループ
長尾谷高等学校

【住民団体・活動】
不登校・ひきこもり家族会連絡会
民生委員
児童委員協議会
青少年育成指導員
連絡協議会

子ども・若者支援地域協議会（既存PF、参加者抜粋）

「高等学校以降の子ども・若者の支援について語らう会」

日々直接的に相談窓口対応にあたっている窓口の実務担当部署が主導

中学高校以降の支援についてセーフティネットとなっている関係機関で構成し、議題に合わせてメンバーを調整。
既存PF外へも声掛けし、大阪府立 枚方高等学校 SSW が参加。

詳細情報：連携プラットフォームの内容説明

（前頁の「連携プラットフォームのイメージ図」に対応）

【取り扱う問題】

- 不登校からひきこもり状態につながることも多い。子ども・若者が抱える問題に早期に気づくことが、将来的なひきこもりや孤独・孤立状態を防ぐために重要であると認識していた。特に、中学高校卒業後や中退後に所属が無くなり、必要な支援が途切れてしまう子ども・若者を重要な対象と設定。
- 相談窓口対応に直接あたっている職員は、ひきこもり状態が長期化している相談があることを肌で感じていた。相談者の中には中学高校で不登校だった方も多く、より早い段階でつながりたいとの想いがある。また、子ども・若者本人が既存の面談相談・電話相談に来所するケースは少ないことを認識しており、更なるアプローチの接点創出を企図。

【背景・方針】

- 既存 PF としては、「枚方市子ども・若者支援地域協議会」がある。参加団体は、福祉分野を中心とする庁内関係課と学校関係の団体、外部団体として社会福祉協議会や就労支援団体、学校関係者など。各機関等が顔の見える関係を築くとともに、さまざまな状況のひきこもり等の子ども・若者に対する支援が可能となるよう、参加団体を拡大してきた。
- 新たな連携 PF として、「高等学校以降の子ども・若者の支援について語らう会」を設立。日々直接的に相談窓口対応にあたっている実務担当部署である子ども未来部が主導。以前より、ひきこもり等の相談窓口・アウトリーチ支援等を実施していた。参加者は定時制高校やフリースクール運営団体、教育委員会児童生徒支援課など、既存 PF において中学高校以降の支援についてセーフティネットとなっている関係機関を中心に構成。第 2 回 PF では、既存 PF 外の「大阪府立枚方高等学校」や SSW といった既存 PF 外へも声掛け。今後も議題に合わせてメンバーを調整する方針である。

3. 試行的事業一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業のポイント・工夫	・ 本事業実施以前より計画されていた「SNS 相談アプリ」の実証実験を単に実行に移すだけではなく、その更なる質の向上を目指し、職員向けの研修を実施している。 ・ 連携 PF 会議を踏まえ既存取組の認知度向上を課題と捉え、その打ち手となる施策（相談窓口の案内リーフレット配布）を短期間で実行に移している。

	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI		実施時期	発注先
①	SNS 相談対応にあたる職員への研修①	・ これまで力を入れてきた対面・電話での相談窓口事業のさらなる拡大として、SNS 相談窓口の来年度以降の本格運用を検討している。その際に対応する枚方市職員のスキル向上とともに、相談支援への共通理解の醸成を図る。 ・ SNS 相談の特徴や安全に進めるための工夫、ケーススタディ等について、枚方市職員を対象に研修を実施。	・ 対応する枚方市職員のスキル向上 ・ 相談支援への共通理解の醸成 ・ 上記に伴う相談対応の質の向上		令和５年２月８日	関西カウンセリングセンター
			成果検証結果	・ 研修相談員の感想		
②	SNS 相談対応にあたる職員への研修②	✓ 上記内容に加え、令和４年夏に実施された「SNS 相談アプリ」の実証実験で寄せられた実際の相談内容を基にした研修を実施。	・ 同上		令和５年２月 24 日	関西こども文化協会
			成果検証結果	・ 研修相談員の感想		
③	広報物・ヤングケアラー啓発カードの印刷	✓ 相談窓口「となとな」の案内リーフレット印刷 ✓ 学校教員・民生委員向けのヤングケアラー啓発カード印刷 ✓ （配布については学校配布物のフローを活用するため委託無し）	・ 相談窓口の認知度向上。本人への周知に加え、教員や親など周囲の人の認知度向上により相談につながる事例を増す狙い。		令和５年２月下旬	ラクスル
			成果検証結果	✓ 教員・民生委員の意見		

7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を列挙

- 学校へのチラシ配布や、教員に対する相談窓口・支援手法の説明実施などによる周知啓発活動の強化。
- SNS 相談アプリを GIGA スクール端末に搭載し、市内の小中学校にて本格運用開始。
- SSW などを通じて個々の生徒に関して教員と職員が共に支援策を考えていくことも検討。
- 子ども達との接点を契機に、保護者なども含め支援の輪を広げていくことも検討。

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- 市役所より PF 参加候補となる組織へ声がけした際には、全ての団体が設立趣旨に賛同。どの組織も同様の課題認識を持っており、共同で取り組む機運は既に醸成されている。
- 他方、ざっくばらんに会話して関係組織同士の信頼関係構築を目的とするのか、具体的に目標や支援策の検討を進める会議とするのか等に関しては各組織それぞれの意見を持っている。
- 「枚方市子ども・若者育成計画」への位置付けを議会に報告した際には高等学校以降の切れ目のない支援に着目したのは意義深く、取組を進めてほしい旨意見あり。

◆詳細情報：試行的事業の実施結果

（表中 本年度に取り組む試行的事業の概要　に対応）

【SNS 相談対応にあたる職員への研修①】

日時	令和 5 年 2 月 8 日（水）13 時～15 時
場所	枚方市男女共同参画活動ルーム（ひらかたサンプラザ 3 号館 5 階）
参加人数	7 人
内容	・ SNS 相談の特徴と実際について資料を用いて学んだ。また、SNS 相談員マニュアルを用いて相談の手順と留意点を学習。 ・ 「学校に行きたくない」という中学生からの架空事例を読みながら、具体的な返答のねらいや意味を解説いただきそのポイントを理解。 ・ 質疑応答では、職員が実際にライン相談を受けた際に感じた難しさや疑問について質問・議論した。

【SNS 相談対応にあたる職員への研修②】

日時	令和 5 年 2 月 24 日（金）14 時～16 時
場所	枚方市役所第 3 分館 4 階　第 5 会議室
参加人数	10 人
内容	・ SNS 相談を受けるにあたっての体制づくりと、関西こども文化協会が受けておられる相談からみる傾向や SNS 相談の特徴について資料を用いて学んだ。相談を受ける際の留意点と大切な視点についても学習。 ・ 実際の相談を想定した実践式のワークも実施。「朝起きられない」という中学生の相談例を用いて、(1) 想像できうることや可能性や気になること、(2) 最初の応答、について検討し、隣の参加者とシェア。全体でもシェアし、講師より解説を受けた。3 パターン実践し、児童虐待に関する架空事例ではリスクの高い事例への対応も学んだ。

・ 研修参加者からは以下のような感想が寄せられており、対応する職員のスキル向上・相談支援への共通理解の醸成につながった。令和 5 年度より SNS 相談アプリを市内の小中学校で本格運用する際には、これらに伴う相談対応の質の向上を期待できる。
  - ➢ 相談を受ける際の体制の作り方や相談員の姿勢、SNS 相談と対面の相談とで対応する際の共通点と違い、リスクの高い相談事例に対する対応方法等について学ぶことができた。
  - ➢ 対面での相談を長く経験してきたため、顔の見えない文字だけの SNS 相談に対して不安が大きかったが、研修の中で事例を通して学べたことで、こんな風に“相談”として子どもたちの役に立てるのかと、具体的に知ることができた。
  - ➢ 子どもが安心して相談できるための体制づくりが大切であることを改めて確認した。

【広報物・ヤングケアラー啓発カードの印刷】

■ 相談窓口を案内する「子どもの相談リーフレット」を印刷し、小学１年生から中学３年生へ配布し、認知度向上を目指した。また、教員・民生委員向けの「ヤングケアラー啓発カード」により周囲の人の認知度向上による窓口とのつながり増加を目指した。

■ 教員や SSW、PTA からは以下のような感想を受け取っており、相談窓口の認知度向上に有効な事業であったと推察される。

- ➢ 今、困っている人で相談窓口を知らない人も多いため、子どもが小学生のうちに配ってもらえるとより早い段階で窓口につながる可能性がある。
- ➢ 気になる子どもがいたときにカードの内容と照らし合わせて、早く気付くことや、どこかに相談したいときに、相談先につなげることに活用していきたい、との反応があった。

図表　印刷物の配布実績一覧

印刷物	部数	配布対象
子どもの相談リーフレット（A4２つ折り）※p.76 に図表掲載	30,000	市内の小学１年生から中学３年生全員
ヤングケアラー啓発カード（教員用）（名刺サイズ３つ折り）	3,000	市内の公立小中学校職員全員
ヤングケアラー啓発チラシ（地域用）（A4）	1,000	民生委員児童委員 青少年育成指導員等
ヤングケアラー啓発カード（地域用）（名刺サイズ３つ折り）	1,000	
子ども若者相談ポスター（A３）	100	市民（市施設利用者等）、施設掲示
子ども若者相談ポスター兼チラシ（A４）	2,000	

図表　「ヤングケアラー啓発カード」

4. 連携PFの行程および実務上の留意点

（ア）初期段階

①	主担当部署の設定	■日常的に孤独・孤立を抱える子ども・若者と接点を持つ相談窓口担当課が主導 ・ 子育て支援を担う部局である子ども未来部の相談窓口担当を中心に、高校以降の子どもへの支援に課題感を抱いていた。市の「子ども・若者育成計画」の改訂にあたり、「高等学校以降においても支援が途切れないよう有効な支援策などを議論する場の設置」を取組内容に掲げている。
②	地域の現状把握	■子ども・若者本人が相談窓口に来所することは難しく、新たな接点創出を企図 ・ 相談窓口では、相談者・件数・内容等について定量的に分析を実施してきた。年間延べ相談件数は 3,000 件程度、新規は 100 件前後であり、子ども・若者本人が初回相談に来所することは難しいことを認識していた。 ・ 令和 4 年には、ひきこもり・不登校に関するアンケート調査・ヤングケアラーに関する実態調査を実施した。 ・ 令和 4 年夏に小中学生向けに実施された SNS 相談アプリ実証においては 1,024 人からコメントがあり、若者との新たな接点として有効であると確認していた。
③	連携 PF の運営形態の検討	■既存団体における団体同士のつながりを活かし、機能強化につながる PF を設立 ・ 既存 PF としては、「枚方市子ども・若者支援地域協議会」がある。参加団体は福祉分野を中心とする庁内関係課と学校関係の団体、外部団体として社会福祉協議会や就労支援団体、学校関係者など。各機関等が顔の見える関係を築くとともに、さまざまな状況のひきこもり等の子ども・若者に対する支援が可能となるよう、参加団体を拡大してきた。 ・ また子ども未来部では以前より、「枚方市子どもの育ち見守り室　となとな」内に設置されている「枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」にて、ひきこもり等の相談窓口・アウトリーチ支援等が実施されてきた。

（イ）準備段階

①	連携 PF の企画・設計	運営方針	■中学高校卒業後も子ども・若者とのつながりを維持することで、将来的な孤独・孤立状態を防ぐ ・ 相談窓口に来所した方の話などから、不登校からひきこもり状態につながることも多いと認識しており、子ども・若者が抱える問題に早期に気づくことが、将来的なひきこもりや孤独・孤立状態を防ぐために重要であると認識していた。 ・ 連携 PF においては、中学高校卒業後や中退後に所属が無くなり、必要な支援が途切れてしまう子ども・若者を重要な対象と設定している。
		主要機能・施策	■まずは顔の見える信頼関係構築を目指しつつ、具体的な施策を実行へ移すための議論を実施 ・ 連携 PF を、必要な情報と支援を届けるための施策を検討する場と位置づけ、既存 PF 構成員を再編した連携 PF を構築している。 ・ 初期段階としては、特にアプローチしたい高等学校以降の子ども・若者に対する現状の取組や課題認識について情報を共有し、子ども達への支援を検討するうえで基礎となる、関係者同士の顔の見える信頼関係の構築を目指している。 ・ 加えて、子ども未来部の相談窓口対応担当職員が実現可能性の高い施策案について具体的な実施手法を提示し、参加団体より意見を収集している。連携 PF での検討を何かしらの形で実現させることで成功体験を創出し、形骸化を防ぐ狙いがある。他方、今後は市と関係団体が意見を出し合い、共に施策を作り上げていく体制を目指している。

②	連携 PF 参加者の検討	庁内	■現場職員がリーダーシップを発揮し、庁内関係課を巻き込み ・ 子ども未来部子ども相談課が主体となり、**実際に相談対応に当たっている現場職員がリーダーシップを発揮している**。 ・ 既存 PF「枚方市子ども・若者支援地域協議会」では健康福祉部など幅広い庁内部局と連携している。今回は子どもの中学卒業時の進路選択について情報を有する教育委員会児童生徒支援課へ声がけしている。
		外部団体	■行政から早期につながれる貴重な機会である、早期の芽（中高生）にアプローチ ・ 初回は既存 PF の「子ども・若者支援地域協議会」参加者から関係機関を市側が選んで声かけした。定時制高校やフリースクール運営団体、教育委員会児童生徒支援課など、**中学高校以降の支援についてセーフティネットとなっている団体を選出している**。全団体より趣旨に対する賛同を得られている。 ■関係者の全員参加に囚われることなく、参加可能な団体から会を開催し、随時調整を図る ・ 全団体の日程調整は困難であるが、まずは会を開催して**関係性を構築することを重視し**、参加可能な団体から集まり開催されている。今後は議題に応じて、随時参加団体の見直し・声がけを行う。 ・ 連携 PF の第 2 回会議では、第 1 回会議での参加者に加えて既存 PF 外から SSW や大阪府立枚方高等学校も新たに参加している。
（ウ）設立段階			
①	連携 PF 内での連携・協業		■困難を有する子ども・若者と日々接している参加者同士で、現場の声を共有 ・ **連携 PF の参加者は、日ごろ困難を有する子ども・若者と直接向き合い、支援を届けている実務担当者である**。中高生への支援が、ひきこもりの長期化や将来的な孤独・孤立を防ぐ重要なポイントであることは、日ごろの業務から強く感じている共通認識であった。 ・ 会議では、参加者が日ごろ**困難を有する子ども達とどのように接しているか**を共有している。また、子どもの置かれている環境についての認識や、支援における課題感を共有している。 ・ 個別具体のケースではなく、困難を抱える子どもに多く見られる課題や、1 人でも多くの子どもとつながる支援の在り方等について検討している。
②	域内住民・関係団体への情報発信		■子ども・若者本人に加え、彼らを日常的に支える家族や教員への情報発信も重視し、支援を必要とする子ども・若者と適切につながる ・ 相談窓口については、チラシ配布などで認知度向上を図っている。**小中学生へは定期的に全員へ配布**することで、本人はもちろん、その親など周囲の人の認知度獲得も目指している。また、枚方市で 18 歳以下に 1 万円のギフトカードを支給した際には、相談窓口の案内チラシを同封するなどの**庁内連携も実施している。** ・ 相談窓口案内チラシの内容は、場所・電話番号などの重要な情報に絞り簡潔に整理されており、相談したい人が必要とする情報をダイレクトに伝えている。連携 PF にて、参加者から紙のチラシの方が実際の相談につながる訴求力があるとの声もあった。**デジタル・アナログそれぞれの特徴を活かしながら**情報発信に取り組んでいる。 ・ SNS 相談アプリについては、本格運用開始時に校長会等を通じて全小中学校に説明予定である。引き続き、情報発信を行っていく。
③	優先的に取り組む課題・今後の方針		■既存窓口の認知度向上に留まらず、新たな接点創出（学校・アプリ）へ挑む ・ 連携 PF 会議にて挙がった「相談窓口の認知度が低い。生徒に紹介するためには概要・支援内容について理解したい。」との声を受け、**高校の職員向けのチラシ配布や、相談対応職員による相談窓口・支援手法の説明実施などを検討している**。 ・ SNS 相談アプリの本格運用開始へ向け、相談対応の質を向上すべく職員への研修を実施。本格運用へ向けての残課題を整理し運用開始に備えている。

コラム　～地域の支援団体から見た孤独･孤立対策と連携 PF の重要性～

一般社団法人　あおい教育支援グループ

- 通信制高校のサポート高校として、あおい高等学院を枚方市内で運営。
- ５年前より、地域の方とのつながりをきっかけに小中学生向けのフリースクールも運営。

行政の窓口の存在自体を知らない子ども･若者もおり、早期につながることが重要

- 中学高校以降で学校という居場所を失った子ども･若者やその家族の中には、相談窓口「となとな」の存在を認知していなかったという場合が往々にしてある。今後も周知を続け、支援を必要とする子ども･若者へ早期に行政や支援団体とつながることが重要。
- こういった孤独･孤立への取組や、連携 PF 会議の開催自体を周知することも、窓口を知るきっかけになるだろう。

各関係者が支援策を持ち寄り、より良い選択肢を議論する場が必要

- 個人的な支援のネットワークには限界がある。目の前の支援を必要とする子どもに、行政から提供可能なサービスの選択肢は分かり辛い。また、事業者もそれぞれ提供可能な解決策が異なる。例えば、週１回程度生徒の面倒を見てくれる事業者がいたとして、その事業者とつながっていれば子どもをそこへ案内するという選択肢が生じるが、知らなければ難しい。
- 多様な主体が、それぞれ持ちうる解決策を持ち寄り、上手く連携できることが理想。まずは、連携 PF で、中高生への支援について議論していけたらと思う。

信頼関係を構築し、行政･民間が補い合うことで子ども達へのアプローチを拡充

- 孤独･孤立に関わる話題は繊細な部分があり、関係者の間で、この人になら困っている子どもの相談･紹介をしても良いと思えるような信頼関係の醸成は重要だろう。
- 民間団体だからこそ可能な動きとしては、家庭訪問や高校の体験会を開催するなど、行政の支援の先を実施できることがある。行政だからこそ可能な動きもあり、行政側から何をしたいのか･出来るのかを踏み込んで伝えてもらえると、民間としては活動しやすい。枚方市は子ども未来部が積極的に歩み寄って下さっており、民間事業者の一層の努力も不可欠と考える。

5.自治体等との打合せ記録一覧

No.	日時	打合せ相手団体	議題
1	12/9(金) 15:00-16:00	枚方市	本事業概要のご説明と実施内容検討
2	12/16(金) 14:00-16:00	寝屋川高等学校(定時制) 大手前高等学校(定時制) 長尾谷高等学校(通信制) あおい教育支援グループ 教育委員会児童生徒相談支援課 子ども未来部　子ども相談課	連携 PF「高等学校以降の子ども･若者の支援について語らう会」 第１回
3	1/27(金) 16:00-16:30	枚方市	試行的事業の実施内容検討
4	2/13(月) 10:00-11:00	枚方市	連携 PF 第２回開催へ向けた論点整理
5	2/16(木) 9:15-10:00	あおい教育支援グループ(伊藤様)	取組内容についてのヒアリング
6	2/16(木) 10:00-11:00	枚方市	従来の取組と今後の展望についてのヒアリング
7	2/16(木) 11:00-12:00	寝屋川高等学校(定時制) 枚方高等学校(全日制) あおい教育支援グループ	連携 PF「高等学校以降の子ども･若者の支援について語らう会」 第２回

	教育委員会児童生徒相談支援課 枚方市スクールソーシャルワーカー 子ども未来部　子ども相談課